

緑に関する課題

1 緑に関する課題の整理

(1) 課題抽出の視点

本市は、山と海に囲まれた風光明媚な地域であり、第五次蒲郡市総合計画や蒲郡市都市計画マスタープランでは、豊かな自然や文化的な地域資源の保全・活用をまちづくりの目標としています。また、臨海部には温泉街やマリンレジャー施設等の観光・レクリエーション施設が数多く立地し、都市の魅力を高めています。

しかし、近年では市街地開発等により樹林地や農地等の緑は減少を続け、担い手不足などにより管理が不十分な山林や遊休農地も増加傾向にあります。一方、土地区画整理事業が施行された市街地では公園整備が計画的に進められ、緑豊かな環境が整備されていますが、住宅が密集する既存市街地などではオープンスペースが少なく、公園等の整備が困難な状況にあります。

また、公園や街路樹等に関しては、アダプトプログラムなどにより地域住民等の協力のもと、適切な維持管理に努めているところですが、財政的な制約もあり十分に行き届いているとは言い難い状況です。このため、さらに市民や民間事業者等と協働で活動できる環境を充実させることが重要となっています。

これらのことを踏まえ、第5次蒲郡市総合計画に掲げる将来都市像「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち」を目指すため、前計画の基本理念である「緑をいかす」、「緑をつくる」、「緑をつなぐ」、「緑をはぐくむ」の4つの視点から本市の緑に関する課題を整理します。

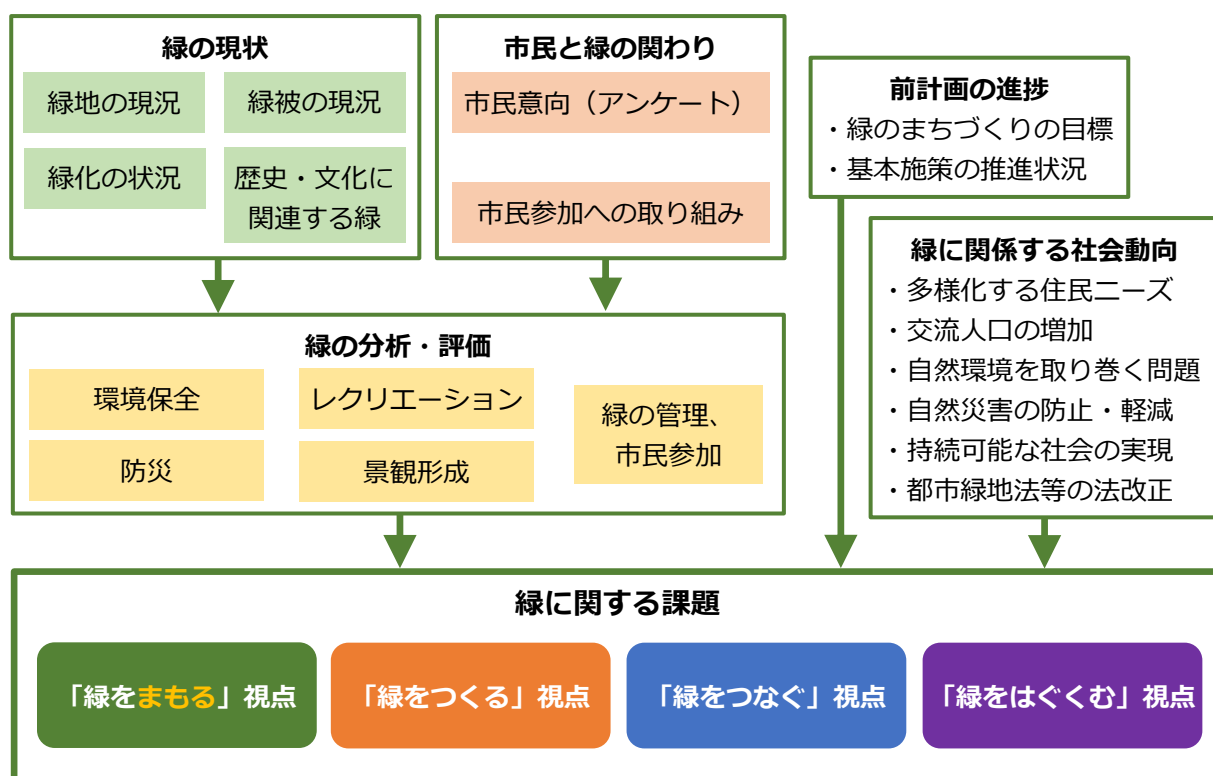


図 課題抽出の視点

(2) 緑に関する課題

『緑をまもる』視点からの課題

緑の分析・評価

- ・山地、丘陵地の樹林、果樹園等の農地は、本市の緑の骨格を形成し、生物多様性の確保や水源涵養などの機能も有し、緑豊かな環境の維持に寄与しています。
- ・市域の山林の面積は、平成 21 年の約 1942 ヘクタールから令和 5 年には約 1930 ヘクタールとほぼ変化なく、面積的には保全されています。
- ・市街地を流れる河川等は、山地と沿岸部を結び、市街地へ冷涼な大気を供給する機能を有しています。
- ・市域の農地(果樹園、田、畑)の面積は、平成 21 年の約 1014 ヘクタールから令和 5 年には約 918 ヘクタールに減少しています。
- ・農業従事者の高齢化、後継者不足により遊休農地の増加が懸念されています。
- ・国定公園に指定される御堂山から三ヶ根山の山並みや竹島、三河大島等の島しょは、本市を代表する遠望景観を形成する重要な要素となっています。
- ・国道 23 号蒲郡バイパスの整備により、インターチェンジ周辺の土地利用が進み雨水保水機能を有する農地が減少しています。

前計画の進捗

- ・砂浜の再生や、河川改修の際に川底を石や砂利とするなど、海辺や河川の保全について部分的に進められています。
- ・農地や樹林の保全に係る活動に対して補助事業が実施されています。

緑に関係する社会動向・市民ニーズ

- ・温暖化や種の保存など地球規模での環境変化に対する市民の意識が高まる中で、脱炭素や生物多様性に関する取り組みが全国で進められています。
- ・アンケートでは、緑豊かなまちと思うという回答の主要因として、山地や農地を上げるものが多くあります。

●遠望峰山をはじめ本市の山地や、三河湾に面した海岸の緑は本市の骨格であり、自然環境を維持するための重要な緑として保全を図る必要があります。

●丘陵地の果樹園等の農地は、地域の景観を特徴づけるとともに、多様な生物が生息・生育し、人と自然との共生の視点においても保全が必要です。

●西田川、落合川、拾石川などの河川は、多様な生物の生息・生育地であり、身近に自然とふれあえる貴重な地域資源として、保全する必要があります。

緑の分析・評価

- ・市街地内の都市公園、公共施設緑地（港湾緑地、児童遊園地等）、社寺境内地等は、市民に身近な緑を提供し、快適な生活環境の維持・向上に寄与するほか、徒歩圏内のレクリエーションの場となっています。
- ・中央公園、大塚海浜緑地、蒲郡緑地、公園グラウンド、とよおか湖公園は、広範囲の市民を対象としたレクリエーションの場であるほか、森林や水辺と一体となった公園緑地は自然とふれあう場となっています。
- ・形原町、西浦町、大塚町等では身近に公園のない地域が広範囲にあります。
- ・景勝地や温泉郷と一体となった国定公園園地は、自然とのふれあいの場や広域的なレクリエーションの場となっています。
- ・4つの温泉郷やラグーナ蒲郡は、観光のまちとしての代表的な景観要素であり、周辺の緑地を含めて魅力ある景観を形成しています。

前計画の進捗

- ・月1回以上利用している人の割合（指標2）は、令和5年のアンケート調査で30%余りであり、目標に対して約20%下回っています。
- ・区画整理地域内では計画的に公園整備が進められ、令和2年度に公園施設長寿命化計画を策定し、公園施設の更新が進められています。

緑を関係する社会動向

- ・市民が公園に求める機能も多様化し、住民ニーズに応えた公園の整備や、身近な緑の保全・活用などの取組が求められています。

- 市民が日常的に利用する公園・緑地の整備と適切な施設更新を進め、利便性及び魅力の向上を図る必要があります。
- 身近な公園・緑地は良好な生活環境に欠かせない必要な施設であるため、都市公園の不足する地域では対策を講じる必要があります。
- 市街地内の緑は、都市環境の改善や災害時の被害拡大防止など多様な役割を果たしており、公共空間や民有地において引き続き緑化を進める必要があります。
- 自然的環境や景観への影響に配慮したまちづくりを行い、自然と調和した都市となるよう検討が必要です。
- 竹島から蒲郡駅にかけての一带やラグーナ蒲郡は、本市の観光交流の拠点として、さらなる魅力の向上が必要です。

緑の分析・評価

- ・河川の水辺や緑化された幹線道路は、農地や海岸一帯からの冷涼な大気を運び、ヒートアイランド現象の緩和など都市環境を改善する機能を有しています。
- ・良好な歩行空間を整備し、歩きたくなるまちなかの形成が求められています。
- ・竹島周辺など海岸の緑地・水辺は、自然とのふれあいの場を提供するとともに、市民や観光客に親しまれ、緑のネットワークにも寄与しています。
- ・幹線道路の街路樹は、避難地まで安全に移動できる経路路としての機能を有しています。



前計画の進捗

- ・幹線道路の整備については順調に整備が進みつつあるが、緑化等に関して計画が見直されています。
- ・サイクリングロードの整備などによる海辺のネットワーク形成については未検討となっています。



緑を関係する社会動向

- ・地域活性化に向けて交流人口の増加が求められており、広域的な集客性を持つ海洋性レジャー・レクリエーション施設等を活用した対応が必要です。



- 市外から本市への主要なアクセス道路では、緑化推進などにより、歩行の快適性の確保と魅力ある景観整備が必要です。
- 竹島周辺の海辺では、観光などレクリエーションの場として、より魅力を高めていくため、緑を結ぶネットワークの充実が必要です。

緑の分析・評価

- ・森林や水辺と一体となった公園緑地、三河湾沿岸の水辺等は自然体験活動や自然観察会など、自然とのふれあいの場として活用されています。
- ・緑に関する活動について、情報の発信や参加しやすい環境づくりが十分ではありません。
- ・街路樹や街区公園等は、維持管理に関する経費や人員の不足等はより行政のみでは十分な対応が困難な状況になりつつあります。
- ・都市公園では安全性や快適性の確保を行うため、公園施設長寿命化事業を進めています。
- ・平成31年度に都市の魅力を高めるために、蒲郡市景観計画を策定しています。



- 緑豊かなまちづくりを推進するためには、市民・事業者・行政で役割分担し、緑に関する情報提供や情報の共有を行い、協働・連携していく必要があります。
- 市民の緑への関心を高めるため、環境学習や自然体験活動等のイベントを継続・充実させることが必要です。
- 良好な都市景観を確保するため公園や街路樹等を状況に合わせて計画的に管理する仕組みづくりが必要です。

前計画の進捗

- ・アダプトプログラムは、平成22年から約10年で、団体数は約2.5倍の40団体に、会員数は約2.4倍の883人に増加しています。
- ・環境チャレンジ等環境学習の取組が進められています。



緑を関係する社会動向

- ・持続可能な社会の実現に向けて、公園施設等の維持管理においても、戦略的、効果的な対応が求められています。
- ・都市公園法や都市緑地法等が改正され、「公募設置管理制度（Park-PFI）」が設けられるなど、民間の知恵や能力の活用により、公園の質や利用者の利便性の向上が求められています。

